

2021WPNS ジャパンカップ札幌大会

コロナ対策ガイドライン

<基本的な感染予防対策> 飛沫感染および接触感染を予防

- ・マスクを持参し、競技中以外や会話をする際には常時マスクを着用する。
 - ・咳エチケットを徹底する。
 - ・他の参加者および主催者スタッフ等との距離を確保する（最低でも 1m、できれば 2m）。ただし、障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。
 - ・屋内では換気※を徹底する。
 - ・人と人が対面する場所は、アクリル板や透明ビニールカーテンなどで遮蔽する。
 - ・大会中に大きな声で会話・指示、応援等をしない。
-
- ・こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒（推奨アルコール濃度 60～80%）を実施する。受付、洗面所、各部屋の出入り口等に手指消毒剤を設置する。
 - ・複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子、手すり等）は、アルコールや抗ウイルス作用のある消毒剤含浸クロス（成分として、アルコール含有量 60～80%が望ましい）でこまめに消毒する。

※換気：30分に1回以上、数分間窓を全開にすることを目安に、部屋の空気をすべて外気と入れ替える。開窓による換気は2方向以上で行い、サーキュレーターを使用するなど施設状況に合わせて工夫する。

<大会の基本方針>

- ①本大会では、競技会エリアには大会主催者が認める関係者のみの入場を認め、それ以外の関係者および観客の入場を禁止とする。（無観客開催）
- ②大会期間中、会場への入場時は必ず大会が準備した検温場所で検温を受ける。
- ③大会2週間前からの大会期間中の検温結果、体調チェックを含む問診票を必ず提出する。
- ④大会関係者（選手・コーチ・競技運営スタッフ）は、大会主催者が指定する宿泊先に宿泊し、大会期間中は大会関係者以外との接触を禁止する。
- ⑤競技運営スタッフの人数を極力削減して大会運営を行う。

<イベント開催前の感染予防対策>

参加者の遵守事項の周知 大会 HP 上および大会要項内で周知

- ・大会2週間前からの体調確認：該当項目がある場合には、報告のうえ参加を見合わせる。
 - a) 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）発熱の基準は 37.5℃以上、または平熱より 1℃以上高い状態のいずれかとする
 - b) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - c) 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合
 - d) だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - e) 嗅覚や味覚の異常
 - f) 体が重く感じる、疲れやすい等

- ・健康管理表の記入（事前）；上記項目を記録した「事前チェックシート」を事前に記入し大会当日に提出してもらう。または、オンラインの入力フォームで報告してもらう。
- ・大会前に指定のPCR検査を受検し、陰性であることを確認する。
- ・マスクを持参する。
- ・「接触確認アプリ（COCOA）」のインストールを推奨する。また会場内でのBluetoothはオンにしておく。
- ・イベント前後の懇親会の開催は控えることを願います。
- ・公共交通機関や飲食店等を利用する場合は、分散利用することを願います。

＜競技会エリアの設営、サービス、宿泊施設における感染予防対策＞

共通の対策事項

- ・手洗い場には石鹸（ポンプ型、自動排出型が望ましい）を設置する。ハンドドライヤーは使用せず、ペーパータオルを用意する。（マイタオル持参を推奨する。）
- ・各部屋の出入り口および手洗い場に手指消毒剤を設置する。
- ・換気扇の常時使用、換気用の小窓を開ける等、換気に十分に配慮する。窓や扉が2か所以上なく換気が困難な場合にはサーキュレーターを使用する。
- ・複数の参加者が触れる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、いす等）はこまめに消毒する。
- ・対人距離を保てるよう、十分な広さを確保する、使用できる場所を制限する、一度に入室できる人数制限をする等の工夫をする。
- ・選手・スタッフは常時マスクを着用する。

I. 競技会エリア

施設管理

1. 更衣室（シャワー室を含む）、休憩・待機スペース
 - ・対人距離を確保できない場合には、一度に入室できる人数制限等の措置を講ずる。
 - ・更衣室のロッカーは使用前後に消毒する。
2. 洗面所（トイレ）
 - ・正しい手洗い方法を掲示する。（「手洗いは30秒以上」等）
 - ・トイレのふたを閉めて汚物を流すよう掲示する。
3. チューンナップスペース/ワックスキャビン
 - ・キャビン内の人数制限を設定する。
 - ・準備専用ゾーンへの入場（特にスタート地点）は、チームごとの人数制限を設定する。
4. 選手待合室
 - ・移動前後で手指消毒を実施する。
 - ・手すりなど複数の参加者が触れる場所は定期的（開場前・休憩中・大会終了後）に消毒する。
5. プレススペース、個別取材場所
 - ・カメラや機材用に消毒液含浸クロスを用意する。
 - ・選手と取材スタッフが対面しない着座配置にする。またはパーテーションを設置する。
 - ・取材スタッフはマスクもしくはフェイスガードを着用する。

6. 競技会場、ウォーミングアップ・クールダウン会場

- ・対人距離をとって行動できるような動線管理、入退場人数管理を設定する。
- ・出入り口に手指消毒剤を設置する。
- ・競技時以外はサージカルマスクを着用する。(防寒・防風のためのマスクを着用している場合はそれでも可)
- ・外したマスクは袋に入れる等各自で管理する。
- ・大きな声での会話や誘導をしない。
- ・飲食場所を指定し、飲食物の共有をしない。

7. レース事務局

- ・競技会エントリー、スタートリスト、結果、分析などに可能な限りオンラインシステムを使用する。
- ・TCMはオンラインで行い、すべての情報をオンラインで利用できるようにする。

8. 救護室の準備

- ・十分な広さのある救護室を確保し、発熱者が発生した場合などに適切な対応がとれるように、医師・保健師・看護師いずれかにすぐに連絡が取れる体制にしておく。
- ・医療用個人防護具（フェイスシールド・ゴーグル・手袋・マスク・白衣など）を準備し、救護者や体調不良者の対応にはこれらを着用する。
- ・発熱者が出た場合の隔離室または隔離できるテントなどを確保する。(適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションなどで仕切ったコーナーを用意する。)

9. ごみの廃棄、清掃・消毒

- ・ごみは可能な限り各自で持ち帰る。
- ・鼻水、唾液などが付着したごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛る。
- ・ごみを回収する人はマスク・手袋を着用する。
- ・作業後は手洗いもしくは手指消毒を行う。
- ・通常の清掃後、不特定多数が触れる環境表面を開場前、閉場後に消毒する。

10. 飲食スペースの設置

- ・食事は個別に摂取する。やむを得ない場合は、非対面で摂取する。また、食事時の会話は控える
- ・飲食スペースでは人が密集しないように配慮する。対面式のテーブルなどでは一方向のみの使用とするか、パーテーション等を使用する。
- ・飲食物を提供する場合には下記に配慮する。
 - ① 飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うように声掛けをする。
 - ② スポーツドリンク等の飲料は、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供する。(ただし、ドーピング検査の対象者が参加する場合には、未開封の飲料を提供するのが必須。)
 - ③ 果物等の食品は、一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供する。(大皿から同じトングで取り分けるような形での提供は避ける)
 - ④ 飲食物を取り扱うスタッフはマスクを着用する。
 - ⑤ 利用者が密な状態になる場合には、人数制限を行う。

11. 役員の控室（ジュリー、データ/計時、審判）

- ・アクセスを専任スタッフメンバーに制限する。

12. ドーピング・コントロールステーション

- ・待合室スペースを確認する。
- ・各検体採取機関は、WADA（世界アンチ・ドーピング機構）ガイドラインに従う。
- ・上記以外に必要な追加の設備・対策があれば準備する。（追加のトイレ、消毒、廃棄物管理、清掃等）

競技運営

1. TCM、運営スタッフ会議

- ・会議は可能な限りオンラインで会議を行う。
- ・対面で会議を行う場合には、常時マスク着用とし、出入口での手指消毒を徹底する。また、出席者の人数制限をし、必要最小限の参加者で会議を行う。
- ・対面する座席には、パーテーションを設置する。
- ・会議場内では食事をしない。

2. 入場・受付時の対応

- ・参加者の遵守事項に該当する参加者は、大会への参加は見送る。
- ・「参加者の時間差入場」「待機人数の削減」「人との距離を考慮した目印」「スタッフと参加者の入退場動線を分ける」等の対策をとる。
- ・非接触体温計を使用して検温し、発熱者であれば入場を制限する。
- ・飛沫感染予防について注意を促す。（マスク着用、大声や対面での会話を控える等）
- ・入場時に手指消毒を行い、健康管理表を確認・受理する。

*受付における確認・留意事項

- ・体調の確認：参加者の情報を Web 登録で提出してもらう。（難しい場合は所定様式による紙提出でも可）
 - ① 参加者の氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）
 - ② イベント当日の体温、身体症状
 - ③ イベント 2 週間前からの健康・行動記録（[上記青字項目](#)）
- ・事前振込等により参加料等を徴収する。
- ・注意喚起の張り紙などをする。（発熱や軽度の咳・咽頭痛がある場合には入場しないように注意を促す。）
- ・人と人が対面する場所では、アクリル板や透明ビニールカーテンなどを使用し遮蔽する。
- ・参加者が並ぶ場合の目印を設置する。
- ・受付、エントリー等をオンライン化する。（書面の記入や現金の授受を避ける）
- ・接触確認アプリ（COCOA）等の活用を推奨し、会場内では Bluetooth をオンにしてもらう。

3. ウォーミングアップ・クールダウン時の対応

- ・選手ごとに時間帯や使用スペースを分ける。
- ・距離が保てていればマスク着用は強制しない。ただし、対面での会話は控え、咳エチケットに留意する。また、大声での会話や指導はしないよう周知する。
- ・ランニングを行う際には、他者と前後一直線に並んで走るのは避け、並走もしくは斜め後方に位置をとる。
- ・コーチは常時マスクを着用し、大声での指導や近距離での会話は避ける。

- ・汗は素手で拭わず、タオルでふき取る。

4. 競技時の対応

- ・ゼッケン No. 等により「時間帯を分ける」「待機スペースを設ける」など、2m 以上の距離を保てるようにする。選手・スタッフは常時マスクを着用し、大声での指導や近距離での会話は避ける。
- ・競技前に選手がマスクを外す場所を設定する。外したマスクはビニール袋等の各自のケースで保管することとし、第三者が触れることがないように徹底する。
- ・スタート地点にある各種共有物は、選手が素手で触れていなければ一選手ごとの消毒は不要である。
- ・運営・設営・整備スタッフは常時マスクを着用し、筆記用具やトランシーバーは共有しない。
- ・競技終了後はゴールエリア等での滞留は避け、監督・コーチ・チーム関係者との握手やハイタッチ等の接触を行わない。
- ・呼吸が落ち着くまでマスクの再装着は不要であるが、対人距離を確保し咳エチケットを遵守する。
- ・唾液や鼻水などの体液が付着したゴミは、ビニール袋に入れ密閉して持ち帰る。
- ・先行する選手の飛沫が顔に付着している可能性があるため、競技終了後の洗顔（顔の清拭）を推奨する。
- ・競技中の転倒やコースアウト等で救護が必要になった場合の救護スタッフは、マスク・フェイスシールドを着用する。

5. ドーピング検査

- ・検査官は、マスク、フェイスシールド、ディスポーザブル手袋を着用する。
- ・検査官が検体に触れた場合、手袋は一選手ごとに交換、手袋着脱の前後で手指消毒する。
- ・待合室は、時間帯やスペースを分け、対人距離を確保する。
- ・被検者は、検体を扱った手で不用意に顔や共有物に触れないよう注意する。
- ・検査終了後に手指消毒、もしくは石鹸による手洗いを徹底する。

6. インタビュー時の対応

- ・選手とインタビュアーは対人距離（2m 以上）を確保する。
- ・共有マイクは、都度清拭消毒する。

7. 表彰式、セレモニー

- ・授与者、表彰者ともに、メダル・トロフィー等の授受前に手指消毒を行う。
- ・授与者は手袋を装着するか、授与前に手指消毒を行う。（感染対策をとっていることが視聴者等に分かるように配慮する。）
- ・握手やハグは行わない。

8. 競技終了後の対応

- ・参加者全員が一斉に退場しないように時差を設けて退出する。
- ・ミーティングや懇親会等を行わないよう周知する。
- ・退場後 2 週間以内に「新型コロナウイルス感染と診断された」場合には、日本障害者スキー連盟連絡担当者に対して報告するように周知する。

9. 観客

- ・大会主催者が認める関係者のみの入場とし、無観客で開催する。

II. 宿泊施設

- ・感染した場合のクラスター発生防止のため、接触者を限定できるようにする。具体的な注意点として以下の点に留意する。
 - ① チームは同フロアにする、使用するエレベーターや階段等を制限する等、可能な限り一般のホテル客と隔離する。（可能であれば他の一般客とは異なる経路使用が望ましい。）
 - ② シングル部屋を利用する。やむを得ず複数人で宿泊する場合は、同室者を固定する。ベッド間の距離を保つためツインが望ましい。
 - ③ 宿泊者の到着前に追加で清掃を行う。（宿泊者が部屋にいる時には接触を避けるため清掃はしない。）
 - ④ 各部屋を含め、宿泊施設内の至る所、複数個所に手指消毒剤とペーパータオルを設置する。
 - ⑤ 共通エリアは定期的に清掃する。
 - ⑥ トレーニング用品を第三者と共有する場合には、使用前後で手指消毒を徹底する。
 - ⑦ 隔離用の部屋を確保しておく。
 - ⑧ 男性も着座で排泄し、ふたを閉めてから汚物を流すようにする。
 - ⑨ リネンは定期的に交換を依頼する。
- ・宿泊施設内の食事の際には、以下の点に留意する。
 - ① 食事の同席者や着席位置を一定にする。十分なスペースを確保し、他のホテル客とは別の部屋またはエリアにする。
 - ② チームと役員などのように関係者グループごとに食事時間を設定する。
 - ③ ビュッフェ形式での食事提供は控える（盛り付け済みプレートのセルフサービス、またはテーブルサービスが望ましい）。とりわけが必要な場合には、消毒を徹底する（手指消毒＋手袋使用）、もしくは自身のフォークでとりわけする。
 - ④ テーブル全員が退出した食事後にテーブル清掃を行う。（食事中には清掃しない）
 - ⑤ チームの希望と費用負担があれば、ルームサービスを利用可能とする。

III. 交通手段

- ・すべての乗り物は、乗る前後で噴霧アルコールやアルコールウェットティッシュなどを用いて手指消毒を行う。
- ・不特定多数が触れる場所はこまめに消毒する。
- ・可能であれば、公共交通機関の使用を控え、チームごとに移動する。
- ・飛行機内での留意点について
 - ① 個人の座席を離れる頻度を最小限にする。
 - ② 食事前後、トイレ使用等離席前後に手指消毒を行う。
 - ③ 大声での会話、客同士のお酌、グラスの回し飲みは避ける。
 - ④ 持ち物の共有（貸し借り）を控える。
 - ⑤ トイレ使用時には男性も着座で排泄し、ふたを閉めてから汚物を流すようにする。また、手洗いを徹底する。
- ・バス、タクシー、レンタカーでの留意点について
 - ① 窓の解放（できれば2方向）、外気循環の使用等により換気に配慮する。
 - ② 乗車人数の制限を行い、十分に対人距離を確保する。
 - ③ 可能であれば運転席前後のパーテーション設置が望ましい。

・電車での留意点について

- ① 大声での会話は控える。
- ② 食事前後、トイレ使用前等離席前後に手指消毒を行う。
- ③ トイレ使用时には男性も着座で排泄し、ふたを閉めてから汚物を流すようにする。また、手洗いを徹底する。

選手・関係者への留意事項

・マスクの着用について

- ① 選手は競技中・ウォーミングアップ・クールダウン時を除き、常時マスクを装着すること（屋外においては、防寒・防風のためのフェイスマスクやネックウォーマー等でも可。待機時間や休憩など屋内で過ごす際にはマスク着用が望ましい。）
- ② ウォーミングアップ後や競技直後は、呼吸が落ち着くまでマスク装着はしなくてもよいが、荒い呼吸は飛沫が多くなり感染リスクが増大するため、対人距離や咳エチケットに留意すること
スタッフはできるだけ選手の呼吸が落ち着くまで近寄らないこと
- ③ マスクが汚染・水漏れ等で使用できなくなることを考慮し、替えを持参すること
- ④ 使用済みのマスクは会場で破棄せず、袋に入れて各自で持ち帰ること

・手指消毒について

- ① 更衣室、トイレ、洗面所等各エリアに出入りする前後での手洗い・手指消毒を徹底すること
- ② 競技用の手袋を装着して共有物に触れると予想されるため、手袋を装着したまま顔には触れないよう注意すること（接触感染予防のため）
- ③ 目・鼻・口の粘膜からの感染リスクがあるため、ゴーグルやフェイスマスク、ヘルメットは清潔に管理し、装着前後で手指消毒を行うこと
- ④ 競技中・練習中にスキー板やストック、ウェアに飛沫が付着している可能性があるため、着脱前後で手指消毒を行うこと（特に手袋着脱前後は注意すること）
帰宅後に流水での洗浄や日光消毒（直射日光に半日以上さらす）、紫外線消毒などを行うこと
- ⑤ 共用物（ドアの取手、自動販売機のボタン、手すり、椅子、テーブル等）に触れる前、触れた後は手指消毒を行うこと

その他大会当日の留意事項

- ・大声での会話や指導は避け、常に2m以上の対人距離をとって行動する。
- ・入場時検温にて発熱が認められた場合には、大会救護担当者の指示に従う。
- ・入場前に体調不良となった場合には、会場内に入場せず帰宅するか、判断に迷う場合は入場口の大会スタッフに申告する。
- ・会場内で体調不良となった場合は、近くの大会スタッフに申告し、移動せずにその場で指示を待つ。
- ・頻回の入退場は控える。
- ・使用禁止エリアへの立入はしない。（大会前後での消毒範囲や大会終了後に陽性者が発生した場合の接触部位特定に影響を及ぼすため）
- ・私物は可能な限り持参した袋に入れて管理する。（目の届かない間に他者の飛沫がかかったり、自身の飛沫が付着した私物で環境を汚染したりするリスクを最小限にするため）
- ・選手は、自分の競技終了後、速やかに退場する。
- ・大会終了後、集合しての打ち上げやミーティングは禁止する。

- ・大会主催者および施設管理者が定めたその他の措置・指示に従う。

<大会期間後の感染予防対策>

- ・参加者から収集した情報（個人情報、体調等の記録）を少なくとも1ヶ月保管する。
- ・イベント終了後2週間以内に体調不良となり、「新型コロナウイルス感染症」の感染疑いが生じた、または発症した場合には、速やかに日本障害者スキー連盟まで連絡する。

<感染が疑われる場合の対策計画>

感染が疑われる／感染した場合の対応

感染が疑われる、または感染した場合には、各ヘッドコーチまたは感染予防責任者にすみやかに連絡し、感染予防責任者から札幌市保健所に連絡しその後の対応を調整する。

- 医療機関への相談手順および感染予防対策責任者への連絡手順

発熱および感染が疑われる症状が出た場合には、各ヘッドコーチまたは感染予防責任者へ連絡する。

<相談の目安>少なくとも以下のいずれかに該当する場合が対象である。

①息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合

②重症化しやすい方（★）で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合

（★）高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD等）等の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方

③上記以外の方で発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状が続く場合

症状が4日以上続く場合は必ず相談すること。症状には個人差があるため、強い症状と思う場合にはすぐに相談すること。解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様。

- 大会期間中の担当保健機関：札幌市保健所

体調不良時の連絡先 救急安心センターさっぽろ

電話：「#7119」または「011-272-7119」

札幌市新型コロナウイルス一般電話相談窓口 電話：011-632-4567

- 大会期間後に感染が疑われる場合には、居住エリアの各自治体の保健所に相談する。

各都道府県の連絡先一覧

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/covid19-kikokusyasessyokusya.html